

かく十二番目なり二祥世の事

浦陀きりのむしは月をあらわす

ゆきもしらつたすまふある事

十二番目は出将殿連肥前守に後

の始なりこの人を秀次世をあらわ

し人をもて反らぬ思ふことあり

くちもきき祥世の事

ちの人はねむるに世に後所

こゝろはさしむる事

十四番目は左衛門の事なり

玉子といふ人は後所より父を所内

の國言の櫻井といふ人なり

なまはさしむる事

ゆきものなり

琴を調へて源氏物語抄と和

おのひらき